

ロクハ公園で観察できそうなチョウを集めました。詳しくは色々な図鑑で調べてください。♂♀・季節の型など複雑です。

ここにあげてないチョウを見つけたら是非一報を!! 希少種もあります。採取はやめ、観察のため捕獲する場合も元の場所でリリースを

チョウはひらひらと飛んで何をしているのでしょうか。そのことを考えて探すと出会いやすいです。もっとも大切なのは体を健康に維持するための食事です。好みを知っておくと観察しやすいです。

アゲハチョウの仲間 大型のチョウ、見た目で見分けがしやすい

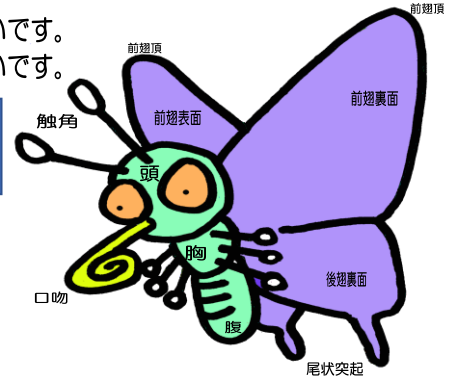
よく似た模様のアゲハ、迷ったら ↓部分、キアゲハは真っ黒、アゲハは横縞模様



モンキアゲハの白いもんはくっきり
ナガサキアゲハの紋は下に感じる。



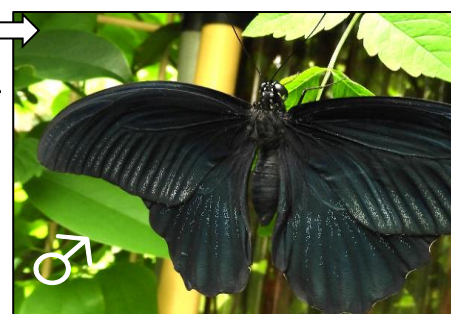
ナガサキアゲハには尾状突起がない
分類の大きな視点。



翅の真ん中の水色はわかりやすい

黒いアゲハは魅力的みんな黒アゲハ
陽の当たり具合で白っぽく見えるときも
青く見えるときもある。

青ミドリっぽく光沢感を持つのが
カラスアゲハ・ミヤマカラスアゲハ。



公園で見られる中で一番大きなチョウ



シロチョウの仲間

誰もが知っているモンシロチョウの仲間、飛んでいる黄色と白だけではわかりにくい。とまてて翅の裏側の様子で、4種に分けるのが一番、翅をひろげてくれたら・・・



シジミチョウの仲間

小さいのでシジミチョウ、その名の通りで飛んでいる小さなチョウはすべてシジミチョウで片付けられる。飛んでいる時の色合いで分かるものもいるが、オスメスで違うものも多い。翅の裏模様が確実



ルリシジミ



ヤマトシジミ



ツバメシジミ

尾状突起



コツバメ

尾状突起小



ミソオナガシジミ

尾状突起



トラシジミ

尾状突起

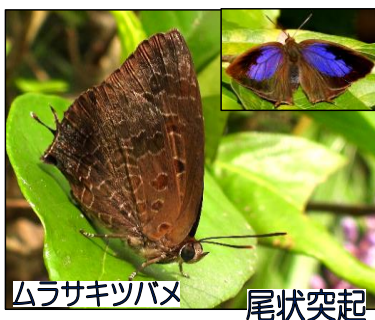


ウラナシジミ

尾状突起



ゴイシシジミ



ムラサキツバメ

尾状突起



ムラサキシジミ



ベニシジミ



ウラギンシジミ



♂

♀

それぞれの種で♂♀の違いがあり、翅の表の色や模様で確認できます。ウラギンシジミは翅を開くと全く違う色が出て来る代表選手・翅を開いてくれない種もあります。コツバメはコバルトブルーが飛んでいる時ちらっと見られるぐらいです。シジミチョウの種類はまだ確認できそうです。

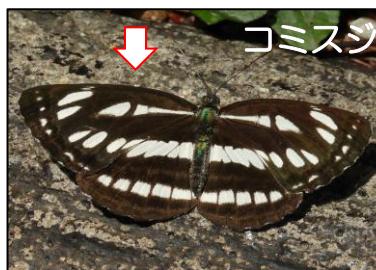


傷だらけのアカシジミ

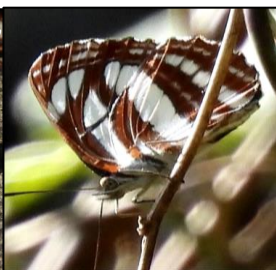
尾状突起

タテハチョウの仲間

ロクハ公園が丘陵地であり深い森もあることからタテハの仲間も多く見られます。真夏の樹液にも他の昆虫と一緒に集まります。



コミスジ



ホシミスジ



アサマイチモンジ



イチモンジチョウとして何種かいる。図鑑によるとアサマイチモンジは数が少ないようだが、ロクハ公園ではこの種しか見られない。

黒地に白い線

そっくりな横線3本のコミスジとホシミスジ。↙部分の形状で見分ける。裏面にもそれぞれの模様の特徴がでている。

擬態の名手

ほとんどの虫が擬態で周りの景色に隠れるようになっている
タテハチョウは翅を閉じて、その模様で景色に溶け込む。ル
リタテハは色で立体感さへ演出します。目立たないが、急激
に広げることで表が見える変化で驚かす攻撃になる。



アカタテハ



ヒメアカタテハ



ヒオドシチョウ



キタテハ



ルリタテハ

樹液が大好き

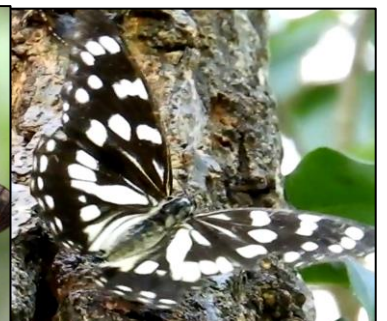
樹液が噴き出すところ甲虫類、スズメバチなどと一緒に樹液を吸っている。
ゴマダラチョウはそこでしか見ないぐらい。集まった虫は小競り合い
をしながらいい場所で樹液を吸う。チョウたちは逃げるところか翅をひ
ろげて威嚇します。



コムラサキ



ゴマダラチョウ



コムラサキは名の通り見る方向によってムラサキ色を見せる、
ヒョウ柄のヒョウモンチョウ



ツマグロヒョウモン

♀

♂

ツマグロヒョウモンは♂♀が別種のように見えます。♂♀を逆に見られることがあります。

ヒョウモンチョウの仲間は圧倒的にツマグロヒョウモンの数が多く、他種は数が少ない。
10種ぐらい見られる可能性があるが、見分けがつきにくい。写真を細かくチェックし翅の裏表もじっくり
見くらべ名前をさがす。かなり難しい。



ミドリヒョウモン



オオウラギンスジヒョウモン



メスグロヒョウモン

出会うのが稀な種
旅する蝶 不思議な模様



アサギマダラ

ロクハ公園では飛びコースと考えにくいですが、
毎年1・2回は単体に出会えます。



スミナガシ

一度だけ公園内で出会いました。模様
ピッタりの名前です。

テングチョウ

テングチョウは、春先から初夏
にかけよく見られます。



蛇の目をもつジャノメチョウ 木々の間をひらひらと飛んでいることが多い。色合いもこげ茶色が主流

下記三種、翅を開いている記録がない。徹底して翅を閉じている。さすがに飛ぶときは開くのですが、翅の表の模様が見られることはまずない。



ヒカゲチョウ



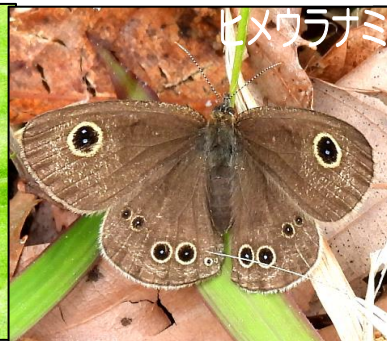
サトキマダリヒカゲ



クロコノマチョウ



ヒメジャノメ



ヒメウラナミジャノメ



ヒカゲチョウにはクロヒカゲ、ヒメジャノメにはコジャノメという黒いそっくりさんがいます。暗い場所ではわかりにくい。



ジャノメチョウの中では、この種のみ日当たりのある草むらを飛んでいます。シジミチョウかなと思うほど小型です。

セセリチョウの仲間

花壇でもよく見かける独特な形のセセリチョウ。多くの方がガとしてにんきしているようです。細い道具で実をせせりとる行為からきたなまえです。図鑑のように翅をひろげるシーンはまずありません。



イチモンジセセリ



キマダラセセリ



チャバネセセリ

個性的なチョウの変態

旅するチョウ以外は、ロクハ公園の環境内で生活している。卵・幼虫・さなぎの時期を意識して観察するのも楽しい。



キアゲハ



ホシミスジ



モンシロチョウ



ルリタテハ



クロコノマチョウ



ゴマダラチョウ



ツマグロヒョウモンチョウ